

熊本県野菜の立地条件

熊本県は九州の中西部に位置し、東西143キロメートル、南北124キロメートル、総面積7,404平方キロメートルである。

地勢は、北、東、南の三方を山地に囲まれ、西に宇土半島が突出し、有明海、八代海を分断し、その西南に天草の島々が連なっている。

気候は、天草の無霜地帯から阿蘇を中心とする高冷地まで変化に富んでおり、年平均気温も17℃から10℃まで地域間の差が激しく、年間降水量は1,800ミリから3,200ミリと、山間部になるに従い多くなっている。

県境の山々を源に、菊池川、白川、緑川、球磨川をはじめ、大小河川が東から西に貫流し、その地域は玉名平野、熊本平野、八代平野などの水田地帯で、トマト、メロン、いちご、なす等の果菜類の施設栽培が盛んであり、熊本平野周辺には阿蘇山の噴火により植木台地、益城台地、合志台地等の台地が形成され、畑地帯及び旧開田地帯を成しており、すいか、ニンジン、カンショ等を中心とする野菜経営がなされている。

また、人吉盆地においてはいちご、メロン、きゅうり、阿蘇谷、南郷谷の水田地帯及び阿蘇外輪の畑地帯では、夏秋期のトマト、ほうれんそうの他、だいこん、キャベツといった露地野菜が栽培されている。

さらに天草を中心とする海岸地帯には、中小河川や入江沿いに水田が造成され、レタス、きゅうり等をはじめ、地域の立地条件を活かした各種野菜が栽培されている。

交通網は、九州新幹線、国道3号線、九州縦貫自動車道が南北に縦走し、県土を横断する国道57号線をはじめ数本の国道とJR数線が隣接各県との間を結んでいる。

熊本県は、全国屈指の輸送園芸県であり、主要な消費地に対し、青果物の供給産地として重要な役割を担っている。